

ヤマトグループ賛助会員向けニュース(季刊) 発行部数12万部・非売品

ヤマト福祉財団NEWS

Yamato Welfare Foundation 2008 Autumn

10月20日発行 No20

この街で一緒に生きていく 障がい者のクロネコメール便配達
そんな光景が淡路にありました



クロネコメール便を届ける元井浩章さん(兵庫県淡路市 ひまわり作業所)と、東浦中学校の生徒さん

私たちの賛助会費が活かされています

スポーツに熱くなる
喜びを!!

平成20年度

障がい者福祉助成金の贈呈式を全国で行いました

スワンのX'masケーキ

今年は私たちも発送します。

YWF TOPICS

私たちの賛助会費が活かされています

スポーツに**雀巢!!** 熱くなる**雀巢**びを

障がい者福祉助成金レポート

スポーツ編

障がい者の参加するスポーツ教室、大会の開催費用として、今年度、財団は4件のイベントに助成しました。

障がい者福祉助成金制度

当財団では、障がい者施設の改善・整備などのほかに、障がい者の関わる文化事業、スポーツ活動等に対する助成も行っています。



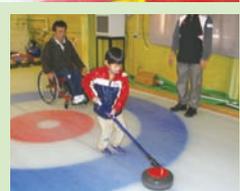
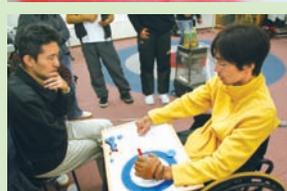
リハビリじゃない！ 俺たちはアスリートだ

「ガチでぶつかる」その迫力に、障がい者スポーツという先入観が消し飛びます。ウイルチエアーラグビーは、四肢麻痺者が車いすで行うスポーツとして1977年に考案されました。2000年のシドニーパラリンピックから公式種目となり、激しい接触プレーが特徴です。障がい者の度合いによって持ち点があり、1チーム4人の持ち点が8点以下で構成する条件で、身体障がいの程度によらず多くの人が参加できる仕組みです。日本ではまだ10チームほどと、プレー人口は多くありませんが、助成を受けて開催された2008年の「西日本リーグin兵庫」は、3チームがエントリー。車いすのアスリートたちが激しい攻防を繰り広げました。

目指すはJAPANブルー

天気にも恵まれた8月、ピッチが歓声に溢れました。この日、開かれたのは「青森障害者サッカー教室」。記念すべき第1回です。サッカーの盛んな地域では、けっして珍しくない障がい者向けのサッカー教室。しかし青森では開かれたことがありませんでした。この状況を打破すべく、弘前大学教育学部付属特別支援学校で3年前に生まれた障がい者のためのサッカークラブ「セレジェイラFC」が中心となって、青森市近隣の障がい者9名が参加。助成金で東京から講師を招き、ドリブルやシュートの基礎技術の指導を受けたり、ミニゲームを楽しみました。これを機に地域での交流を広げ、将来、オール青森のチームをつくりたいというのが、セレジェイラFCの木村代表の思いです。





チェアカーリングは こころの壁を融かす

の壁をも融かすスポーツです。

熱い声援が轟いていました。障がいのある人もない人も一緒に同じ氷の上、同じルールで汗を流すカーリングは、こころ

「カーリングの盛んな地元・軽井沢では、私たちが地域のリーグ戦に出るのは、ごく普通のこと。地域には障がい者特別視しない考えが自然と広がっています」と内田さん。

助成イベント「心をつなぐ バリアフリーカーリング大会」は10月4日に開催。車いすメンバー、女性、中学生以下、シニア（一般）の4名一組でチームをつくり、優勝を争います。会場には終始、

「カーリングは最初からユニバーサルデザインなスポーツなんです」こう話すのは、日本チェアカーリング協会会長の内田清司さん。氷上のチェスとも称されるカーリングは元々、年齢差や体力差を問わないスポーツで、障がいの程度に合わせて、車いすや器具を使えば、健常者ともハンデなしにゲームを楽しむことができます。

この街で、
一緒に生きていく。



(財)ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

「街で障がい者が働いている風景を、 あたりまえにしたい」まさにそれが、 現実となつている街がありました。

兵庫県神戸市から世界一長いつり橋「明石海峡大橋」を渡ると、豊かな自然に恵まれた淡路島が広がります。その北部、淡路市で働くメイトさんたち。街の人達は、障がいのある彼らがメール便を配達する姿はもう日常の風景、決して特別なことだとは感じていないと話してくれました。



「手を振ってくれると、
うれしくなる」
そう答えてくれたのは、
街の人達のほうでした。

海に囲まれたのどかな街、淡路市。この街には、障がいのあるメイトさんが、明るくのびのびとメール便を配達している姿がありました。そしてそこには、彼らを支える作業所スタッフの情熱と、この街の彼らを見守るあたたかなまなざしがあふれていたのです。

「最初、彼らがメール便を配達しているのを見たときは、正直ビックリしました。でもすぐに、頑張ればいろんなことができるんだなあつて、感動したんです」

こう答えてくれたのは、太田石油の太田さん。子供の頃から彼らの姿を見ていた太田さん達にとって、スタッフと力を合わせながら、彼らが街で働く姿を見たときは、とても感激したそうです。
「一生懸命さがこちらにも伝わっ



●兵庫主管支店 津名東浦宅急便センター
面積82.9km²／人口59,769人／世帯数19,931世帯

●ひまわり作業所 (兵庫県淡路市)

社会福祉法人 淡路市社会福祉協議会 東浦支部
(知的・身体 利用者14名)

2007年3月メール便配達開始。クロネコメイト数7名。メール便配達のほか、「喫茶 わいわいサンリッチ」営業やクッキー、ケーキなどの販売。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

お問い合わせは……(財)ヤマト福祉財団 押尾

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

e-mail y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp



(写真右)
 メイトさんたちをやさしく見守って
 くださる、地域のみなさん。
 (右上) 太田みゆきさん
 (右下) 前田升さん
 (左上) 土井一平さん
 (左下) 木村幸一さん

(写真下) 右から
 宅急便センターでメール便を受け取る、
 リーダー的存在の国賀美光さん/
 カードで配達場所をわかりやすく示
 したメール便/東浦平成病院に徒
 歩で配達する、安賀和也さん/作
 業所でのメール便の仕分け作業風
 景。まん中は正井伸治さん/浦保
 育園に配達する、治井一馬さん。な
 んと治井さんは、手渡した方のかつ
 ての教え子だそうです。



東浦公民館にメール便を配達する、
 元井浩章さん。車イスでも一人で配
 達をこなします。「いつも丁寧に手渡
 してくれます」と窓口の方。



てきて、じんとなりました」(太田さ
 ん)
 「メール便配達は、働く障がい者
 の姿が街のあちろこちろで見られ
 るので、とてもいいと思います。彼
 らはもっと、街で人の目に触れら

こんなふうには、ポッポドイ
 ケアハウスの土井さん。「私たちも
 彼らからさまざまなものを与え
 てもらっています。彼らの姿が、地
 域を成長させている」とおっしゃ
 います。
 一人の脳性まひの子供のエピソード
 がありました。その子のご両親
 と関係者の懸命の努力で、中学
 校でも同級生と同じクラスで勉
 強し、卒業したそうです。クラブ
 活動も、彼の希望で野球部。グラ
 ウンドではいつも、みんなと同じユニ
 ホームを着て、仲間と一緒に車イス
 で活動する野球部員の彼の姿が
 あったそうです。運動会では同級
 生達が彼のチームをつくり、車イ
 スを押し、徒競走にも参加しま
 した。生徒たちにとって彼は、大
 切なひとりのクラスメイト、ひとり

れるところにいる方がいいと思っ
 ています」
 こう熱く語るのは、ポッポドイ
 ケアハウスの土井さん。「私たちも
 彼らからさまざまなものを与え
 てもらっています。彼らの姿が、地
 域を成長させている」とおっしゃ
 います。

ひまわり作業所では、最近2人
 の方が卒業しました。その一人が
 南山雄次さん。淡路市役所で、郵
 便物の仕分けなどの仕事に就い
 ています。作業所でメール便配達
 を経験したことが、外で働く自信
 となったようです。

**南山さんは、
 メイトさんの経験を積んで、
 市役所に勤め始めました。**

「いつも通りすがりにでも手を振
 ってくれるんです。すると、とって
 もあたたかな気持ちにさせられる
 んです」と太田さん。
 前田モータースの前田さんは、
 「もう親戚の子供みたいなので
 す」と笑って話されます。そして、
 「企業は責任も伴うので、こうい
 うカタチでの社会貢献は大変だ
 と思います。でもすばらしい活動
 なので、ぜひ続けていって欲しい」
 とおっしゃってくださいました。

のチームメイトだったのです。
 「あの子がいたから、周りが成長
 した」(土井さん)
 そんな子供たちの交流は、親世
 代の人達の心も大きく動かした
 に違いありません。
 淡路シネフォトの木村さんは、
 「障がい者に、特別意識はまったく
 ありません。働いている姿は、街の
 あたりまえの風景になっている。
 それが自然なんです」とぎっぴり
 おっしゃいます。





(写真上)ひまわり作業所 チーフスタッフ来田公恵さん。作業所に通う一人ひとりに愛情をかけて、根気強く指導している様子は、まるで母親のよう。

(写真左)淡路市役所で働く南山雄次さん。「教えたことは一度で覚えて、準備していた仕事以上のことができるんです。勿体ないぐらい優秀な人材です」と、所属する総務課・教育担当者はその仕事ぶりを話します。

「面接で仕事のことを聞かれたときは、メール便を配達したことを話しました」と南山さん。

ひまわり作業所では、障がいがあっても自立して暮らしていけるように、就労にも力を入れていきます。そこで出会ったのが、このメール便配達だったのです。

チーフスタッフの来田さんは「最初は不安でしたが、ヤマト運輸の上久保さんが本当に親身になってフォローしてくれたので、勇気をもらいました。メール便の仕事を、みんなが楽しそうにしているんです。自分が行かないと配達ができない、という責任感も生まれませんでした。どんどん成長していく彼らを見て、本当にトライしてよかったと思います」

スタッフは、彼らに自立心と責任感を持って欲しくて、わざと隠れて付いていくようなこともしたそうです。そうした経験の中から、南山さんのように作業所を離れて就労する人が出てきたのです。「受け入れるばかりで、卒業する人はいなかった作業所の中で、彼らのことは本当にうれしいです」(来田さん)

まるで母親のように一人ひとりを思いやり、愛情のこもったサポートをする彼女は、涙を浮かべながら彼の働く姿を見つめていました。南山さんに、メール便配達の仕事はどうでしたかとたずねると、「好きです。またやりたいぐらいです」と笑顔の答えが返って

きました。

施設・作業所のメイトさんは、平日に穴が空かない。戦力になる。とても助けてもらっています。

ひまわり作業所がメール便配達を始めるきっかけをつくったのが、先の来田さんの話しにも出たヤマト運輸の上久保メール便課長。

「財団からの連絡をうけ、ひまわり作業所にメール便配達の説明に行ったら、エントリーカードを握りしめていました」と笑う上久保課長。大変な情熱を持って、この街に障がい者のためのメール便配達を定着させました。

「最初は、字が読めない彼らが配達できる公共施設や商店など、配達しやすいところだけを選んで渡したり、ルートマップで配達する順番を組んで持って行ったりと、いろいろと考えてサポートしました。しかし半年後には、エリアが増えただけで地図を渡すだけになりましたよ」

「今日も仕事をただけて、ありがとう」が全員から伝わってくるんです。それが嬉しい支えになりました。宅急便と同じように、仕事の中で喜びを感じられました。本当に幸せなことです」(上久保課長)

上久保課長の後を継いだ仁平エリア支店長は、「最初は、これはボランティアだなと思っていました。でも仕事をしてみて、彼らがメール便配達のできるようになることがわかりました。チームで担当してもらえらるから、平日に穴が空くことが絶対ないんです」と、この事業が社会への一方的な貢献ではなく、ヤマト運輸にもしっかりと成果をもたらすことを語ってくれました。そして、



(写真下)東浦中学校の前で、元井浩章さんと阿波崇さん、国賀俊吾ドライバー。坂の多いこの街を、車イスでスイスイと配達する元井さんは、生徒達とも仲良しです(表紙写真)。

(写真左)左から、兵庫主管支店上久保武弘メール便課長、津名東浦宅急便センター 仁平光一エリア支店長。メール便事業について熱く語ってくれました。

(写真右下)ひまわり作業所のメイトさんを支える津名東浦宅急便センターのみなさん。後列右から2番目は、ヤマト福祉財団関西支部 石田久雄事務長。



「社会にこうした貢献をしている会社に務めていることを、誇りに思います」と話してくれました。

「街は教科書」

障がいがある人もない人も、街から人間として大切なことを学ぶのは同じです。彼らは地域の住民を元気づけ、街の空気をイキイキとさせる存在となっています。そして彼らとともに、やさしく豊かに成長している街の姿がありました。

平成20年度 障がい者福祉助成金贈呈式を 全国で行いました

障がい者施設の改善、整備をはじめ出版、研修、文化事業への支援として、
今年度は89件6,017万円の助成が決定しました。
賛助会員のご協力や労働組合のカンパ活動を通して、
みなさんのあたたかい気持ちが障がい者の自立や社会参加への支援につながっています。



売上げ倍増を 目指します

NPO法人あしたや共働企画
あしたや(東京都・多摩市)
施設長 岩間有希さん

「今までは、アイスストッカーに商品を入れていただけだったので、商品が見づらかった」と岩間さん。助成金で商品が陳列できる冷凍庫を購入しました。あしたやさんでは、仕入れて売るのが基本。売れ筋は黒豚や三陸の冷凍品の魚などで、地域のスーパーでは手に入りにくい、ここでしか手に入らない商品構成がセールスポイントです。「冷凍庫設置でお客様からも商品が見やすく選びやすくなったと、早速喜んでいただいています。これで売上げ倍増を目指してがんばりたい」と、意気込みをお話いただきました。



東京支社の贈呈式は8月27日、銀座プロッサム（東京都・中央区）で主管支店長、労働組合支部執行委員長も出席のもと開催されました。

各地で報道されました



助成品のミシンを真ん中にしてコミュニティハウスしずくないでの贈呈式（北海道日高郡）



関東支社



関西支社



手づくりクッキーおからや（山形県鶴岡市）



真空包装機(左端)の贈呈書を岡山主管支店長から受け取る奥野会長(左)

【土別】市内朝日町にヤマト福祉財団（東のあさひ小規模作業所 京都中央区）の障害者福祉助成事業で贈られる真空包装機（百万相当）の贈呈式が二十五日、同作業所で行われた。同作業所は、朝日町手をつなぐ親の会（奥野京子会長）が設置・運営している。利用者は知的障害者五人、身体障害者一人の計六人。女性四人、男性二人で、二十〜六十代。利用者らは、指導員とともに煮詰、笹寿し用の笹葉など真空パック製品などを製造・販売している。

これまで使ってきた真空包装機は、同作業所以前を含め通算二十一年使用。老朽化で故障が多くなり、修理費の負担や生産への支障が課題となっていた。こうしたことから、ヤマト福祉財団の障害者福祉助成金の申請を行った。同財団は、障害者の自立と社会参加を支援することを目的に、一九九三年に設立された。ヤマト運輸の社長、倉昌男氏（同財団初代

理事長）が会社役職を退いた際に個人資産の大半を寄付してつくった。財団の母体となっているのは、ヤマトホールディングス株式会社と、そのグループ会社、ヤマト運輸労働組合連合会。助成事業は書類選考、現地調査を経て選考委員会で決定する。

本年度、道内からは五十件の申請があり、あさひ小規模作業所はじめ三施設・団体への助成が決定した。式では、岡山正・ヤマト運輸道北主管支店支店長から奥野会長に贈呈書が授与された。奥野会長は「新しい機械で、いままですら鮮度と気密性の高い安全で安心できる品質管理の行き届いた製品を製造して、皆さんの

北都新聞 2008年7月28日

北海道支部の贈呈式は道北日報(7月29日)にも掲載されました。

河北新報 2008年7月28日

ヤマト福祉財団

真空包装機を贈呈

100万円相当 あさひ小規模作業所へ

期待と信頼、温かい真心にお応えしたい」地元食材を生かした新製品づくりを進めるにあたり、作業所利用者の大きな励みになると思う」と感謝の言葉を述べた。（古谷勝博）



田原支社長（左）から助成金目録を受け取る福祉団体の代表者

で贈呈式があり、田原良和東北支社長が代表者に目録を手渡した。

障害者自立支援3団体に助成金

ヤマト福祉財団

心身に障害のある人を支援しているヤマト福祉財団（東京）は二十四日、障害者福祉に取り組む仙台市内の三団体に助成金計二百七十三万円を贈った。

助成を受けたのは、NPO法人福祉ネットA・B・C、NPO法人シャロームの会、社会福祉法人みんなの輪。仙台市泉区のヤマト運輸宮城主管支店

助成を受けたのは、NPO法人福祉ネットA・B・C、NPO法人シャロームの会、社会福祉法人みんなの輪。仙台市泉区のヤマト運輸宮城主管支店



松尾主管支店長(左から)助成金贈呈書を受け、た(右から)西川、戸田、山田の各所長

県内3障害者施設に助成金
ヤマト福祉財団

全国の障害者施設や障害を持つ学生に助成・奨学金を贈っているヤマト福祉財団は二十二日、県内三つの障害者施設に福祉助成金を贈った。

助成を受けたのは会津若松市のNPO法人ほっとハウスやすらぎ、郡山市のNPO法人ペンギン村「ペンギン八山田」、いわき市のNPO法人チャオ「地域活動支援センターチャオ」の三施設。贈呈式は郡山市のヤマト運輸郡山主管支店

で行われ、松尾隆志主管支店長がほっとハウスの所長、ペンギン八山田の戸田富美子所長、チャオの山田肇所長に福祉助成金贈呈書を手渡した。各所長が施設の仕事を紹介し、助成に感謝した。

助成金は車両購入や作業室の増築、施設整備費に活用される。今年度は全国で千四百六十六件、県内から三十六件の応募があった。

福島民報 2008年7月23日

東北支部の贈呈式は、福島民友(7月23日)、岩手日報(7月26日)、東奥日報(7月28日)、秋田さきがけ(7月30日)、荘内日報(7月30日)、毎日新聞(8月2日)にも掲載されました。

障害者授産施設もなみに助成金
ヤマト福祉財団

倉吉市八屋の社会福祉法人「和(なごみ)」が運営する知的障害者通所授産施設ボン・シヤンス分場もなみ(八渡和仁施設長)が、ヤマト福祉財団の福祉助成金を受けることになり、五日、同施設で贈呈式が行われた。

同財団は、一九九三年に設立。心身に障害

のある人の自立と社会参加を支援している。贈呈式には、同財団の竹下憲雄中国支部事務長らが出席。ヤマト運輸津山主管支店の海

藤和之支店長が八渡施設長に目録を手渡した。同施設では、助成金で自主製品改善事業のための作業台などを購入することになっている。八渡施設長は「作業台や器具が整えられ、通所者らも作業がしやすくなり、喜んでいきます」と話していた。(上井通信部・田葉明美通信員)

日本海新聞 2008年8月10日



あんどーるげんきの店 (鹿兒島県奄美市)



ほっとハウスのばら (広島県福山市)

宇和島の施設にトイレ設置助成
東京の福祉財団

ヤマト運輸支援のヤマト福祉財団(本部・東京)が、宇和島市住吉町一丁目の知的障害者通所授産施設・はまゆう共同作業所の農場への簡易水洗式トイレ設置費用三十一万円を助成し十八日、目録を贈呈した。

同財団は障害者の自立と社会参加支援を目的に一九九三年に設立。全国で施設改善費用などを助成している。贈呈式には岡田真一ヤマト運輸四国支社長ら約二十人が出席。中川八蔵施設長は「とても助かる。ずっと大事に使います」と感

謝。岡田支社長は「作業が少しでも楽になるよう、お役に立てうれしい」と話していた。

同財団は同日、今治市玉川町摺木の障害者就労支援施設パン工房「麦の穂」にも、オーブン(百万円)の設置費の目録を渡した。



トイレ設置助成費用の目録を受け取る中川施設長(左)

愛媛新聞 2008年8月20日

四国支部の贈呈式は徳島新聞(8月5日)、高知新聞(8月21日)でも掲載されました。



北信越支社



中部支社

平成20年度 障がい者福祉助成金決定一覧

■施設の改善、整備▼5413万円

単位(万円)

地域	団体名	決定額
北海道	厚岸郡 のんき村	90
	日高郡 コミュニティハウスしずない	50
	士別市 あさひ小規模作業所	100
青森県	弘前市 共同作業所ないすらいふ	90
	八戸市 精神障害者小規模通所授産施設大輪	94
岩手県	盛岡市 みたけ弥勒クラブみらい塾	63
	岩手郡 りんりん舎	95
宮城県	仙台市 障害福祉サービス事業所びゅ	100
	仙台市 シャロームの会アトリエぶどうの木	73
	仙台市 わ・は・わ広瀬	100
秋田県	秋田市 いなほ作業所	79
山形県	西村山郡 地域活動支援センターひだまり	100
	鶴岡市 手づくりクッキーおからや	100
福島県	会津若松市 ほっとハウスやすらぎ	100
	郡山市 ペンギン村第3共同作業所	100
	いわき市 地域活動支援センターチャオ	32
茨城県	日立市 さち工房	90
群馬県	太田市 ありさんち	100
埼玉県	狭山市 お弁当屋はばたき	69
	春日部市 重度障害者職業自立協会ぶあく	50
千葉県	白井市 共同作業所ほけっと	100
東京都	中野区 すばる作業所	13
	江東区 リサイクルショップ・オアシス	43
	多摩市 あしたや共働企画	76
神奈川県	横浜市 セサミ香房	75
新潟県	柏崎市 かしわハンズ	20
富山県	中新川郡 ワークハウス劔	80
石川県	小松市 就労支援センターつばさ	75
福井県	福井市 わいわいポケット	50
	都留市 就労支援事業所 チャレンジドリーム	100
山梨県	南アルプス市 どんぐりの家作業所	21
長野県	伊那市 障害者社会就労センターコスモスの家	36
岐阜県	高山市 ウェルコムコミュニティ空町作業所	30
	関市 共同作業所あおぞらの家	78
静岡県	三島市 さわじ作業所	55
愛知県	名古屋市 さくらんぼ作業所	100
	愛知郡 かわせみ工房	100
	名古屋市 大森授産所	34
三重県	志摩市 知的障害者通所授産施設えりはら	100
	津市 工房ひまわり	70
滋賀県	彦根市 工房ふれっしゅ	100
	大津市 おおつ「障害者の生活と労働」協議会	100
京都府	京都市 ジョイント・ほっと	25
	宇治市 ワークセンター宇治作業所	70
	京都市 陽(ミナミ)	100
大阪府	阪南市 舞作業所	100
	泉南市 ワークセンターHOS	75
	箕面市 豊能障害者労働センター	58
	大阪市 よさみ野障害者作業所	32
兵庫県	神戸市 長田むつみ会	90
	三田市 あおぞら作業所	75
奈良県	天理市 みんなの家ていーだ	100
和歌山県	岩出市 きのかわ共同作業所	100
鳥取県	西伯郡 ポッポみらい	100
	倉吉市 ボン・チャンス分場もなみ	30
島根県	鹿足郡 地域活動支援センターよしかの里	35
岡山県	真庭市 小規模通所授産施設 コスモスワーク	32
広島県	尾道市 しまなみ瀬戸田夢工房	37
	福山市 ほっとはうすのばら	100

■施設の改善、整備

単位(万円)

地域	団体名	決定額
山口県	光市 光市心身障害者福祉作業所つづじ園	20
	美祢市 ワークショップびのさお	30
徳島県	那賀郡 あすなろ作業所	43
	徳島市 Creer(クレール)	100
香川県	観音寺市 地域あゆみ共同作業所	77
愛媛県	今治市 パン工房麦の穂	100
	宇和島市 はまゆう共同作業所	31
高知県	高知市 ワークスみらい高知	80
福岡県	北九州市 障害者小規模共同作業所ドリーム・コム	90
	築上郡 村のぼん屋・SUN	74
佐賀県	武雄市 つくしのさと北方作業所	26
長崎県	長崎市 地域活動支援事業所ゆうゆう	100
熊本県	八代市 社会就労センター ワークショップ八代	73
大分県	大分市 小規模通所授産施設 どんぐりの家	38
宮崎県	都城市 ななえ福祉作業所	100
鹿児島県	大島郡 あんどうるげんきの店	15
沖縄県	うるま市 社会福祉法人大樹会	100
	浦添市 障がい者支援センターてだこ	26

■各種講演会、研修事業▼230万円

地域	団体名	決定額
東京都	新宿区 ワーカビリティ・インター ナショナル・ジャパン	50
	神奈川県 平塚市 日本脳外傷友の会	80
大阪府	枚方市 枚方市地域共同作業所連絡会	50
和歌山県	和歌山市 和歌山県自閉症協会	50

■各種出版、啓発活動▼98万円

地域	団体名	決定額
神奈川県	横浜市 横浜失語症会話パートナーを養成する会	30
山梨県	北杜市 やまなし発達障害児の支援環境を考える連絡会	23
和歌山県	和歌山市 NPO法人社会的就労支援機構	45

■各種調査、研究事業

地域	団体名	決定額
	該当なし	

■文化事業、スポーツ▼276万円

地域	団体名	決定額
青森県	弘前市 Cerejeira Football Club	70
東京都	墨田区 日本チェアカーリング協会	30
東京都	町田市 「ぼくはうみがみたくなりました」制作実行委員会	70
大阪府	吹田市 西日本知的障害者陸上競技協会	54
兵庫県	神戸市 ウィルチアアラグビーチーム HEAT	52

■詳細は財団ホームページをご覧ください

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

スワンのX'masケーキ

今年も
私たちが

発送します。



重度障がい者も在宅就労で仕事をするスワン物流部が発足。
さまざまな工夫で仕事を分担し、新しい物流の仕組みができました。
互いに助け合って、今年はクリスマスケーキも発送します！



[在宅ワーク]
伊藤 賢作さん



[在宅ワーク]
徳山 大毅さん



[スワン物流センター]
吉田宗一郎さん(左)
中山 喜満さん(右)

下記のケーキを含め、今年は全部で7種類のケーキのほかパンとシチューなどを
詰め合わせたパーティセットを用意しています。 申込期間 11/1～12/5 お届け日 12/20～12/24



サンタがついてきます

XAハッピースノーマン



サンタ人形を飾る
楽しみもプラス。
雪だるまのケーキ
注) サンタの人形は食べ
られません



大人の味のチョコレートケーキ

XBハッピーショコラ



ヤマト運輸のクロ
ネコマークをアク
セントにしたシン
ブルなケーキ

4つの味がたのしめる！

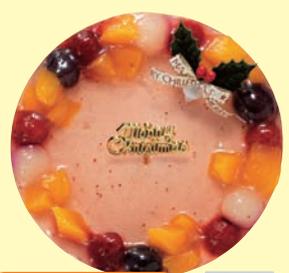
XCハッピーアラカルト



マロン、チーズ &
ベリー、チョコ、
抹茶、4種類を組
み合わせたケーキ

小麦・卵・乳製品不使用

XGハッピーフルーツケーキ



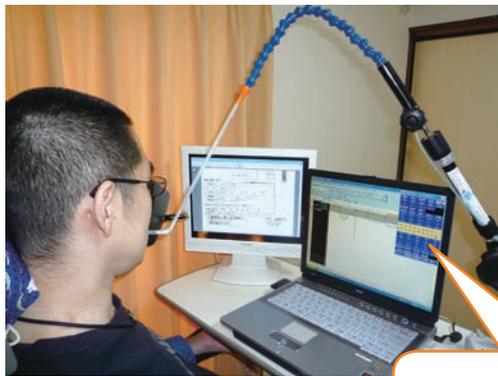
原材料に小麦・卵・
乳製品を使用し
ていないケーキ。ス
テキなキャンドル
もついています。



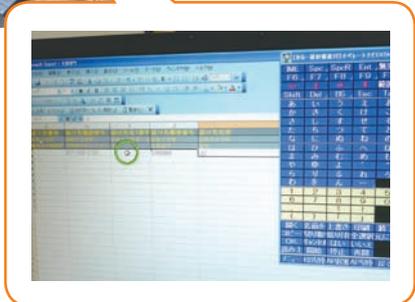
■作業所でもスワンのケーキを取り扱うことができます■ (株)スワン本部 担当：藤野まで (TEL03-3543-1067) お問い合わせください



左の画面が原稿。右が入力用。最初はFAXでやりとりしていたが、伊藤さんは人の手を借りなければ、紙一枚めくることはできない。FAXをインターネットによる画像でのやりとりに変更し、さらにモニターを2つ併用することで、仕事の効率が格段によくなった。



画面上にある仮想キーボードですべての文字入力を行う。カーソルの移動、文字の決定は呼吸センサーに息を吹きこんで指定する。濁点一つ打つにも、4度も息を吹き込まなければならない。



在宅ワーク [伝票入力] 伊藤賢作さん

お客様からのご注文

在宅ワーク [伝票入力] 徳山大毅さん



線維筋痛症
全身の広範囲に、慢性的な激しい痛みを感じる病気。原因は未解明で、各種検査でも異常が発見されないのが特徴。現在のところ、治療法も確立されていない。国内有病率は人口の約1.7%。患者数は200万人程度と推定されているが、病気に対する認知度は医療者も含めて低く、病院を転々とする患者や、周囲から理解を得られずに孤立する問題点も指摘されている。

一日に20錠以上を服用する。それでも当初に比べれば半分ほどになった。



ヤマト運輸で仕事に没頭する日々を送っていた伊藤さんは、5年前に「脊椎梗塞」を発症。第3頸椎に血が詰まり、肩から下をまったく自由に動かせなくなり、肩から下の操作や入力、ストロー状の呼吸入力機器に頼っています。

いま振り返って、元気だったころの自分の働きぶりに満足しているという伊藤さん。こうして働くことは「自分を知らず」に「俺はまだがんばってるよ」という証明みたいなところがあります」と語ります。

一方、自ら広告関係の会社を切り盛りしていた徳山さんを襲ったのは、当時まだ国内では病名も定まっていなかった「線維筋痛症」。ガラスの破片を全身に詰め込まれたような痛みに悩まされる原因不明の病気

**ITでリレー作業、B2が活躍
重度障がい者の在宅就労が可能に**

4月に立ち上げた「物流部」では、新たに2名の知的障がいの方と、重度障がいの方から離れることが困難な方2名を採用。IT技術を橋渡ししに、発送作業を協力して行う取り組みに挑戦しています。

お客様が手書きした注文書のコンピュータ入力を担当するのが、重度障がい千葉に住んでいる伊藤賢作さんと、神奈川県に徳山大毅さんの両名です。

二人の下へは、画像に変換した注文書のデータがインターネットを経由してメールで届けられます。この画像を見ながら、エクセルという表計算ソフトに、宛名や住所、指定配達日などを打ち込んで、再びメールで返送するまでが役割です。

※ヤマト運輸が開発した伝票発行ソフトB2はエクセルが基本になっているので、彼らも簡単に扱うことができました。



この日はマドレーヌの発送依頼、まず丁寧に箱を拭く。



賞味期限の日付を二人で声だし確認。責任ある仕事を慎重に行う。



スワン物流センター
(ヤマト運輸別館)
[梱包作業]
吉田宗一郎さん (右)
中山 喜満さん (左)



伝票を添付した後は、宅急便の窓口まで台車をつかって持ち込む。



指の骨が折れるかと思うような痛みが襲うことがある。それでも一定の時間の幅がある業務であれば、在宅重度の人でも「病状と時間をやりくりして仕事はできる」と言う徳山さん。

重度障がいの方にも働く喜びを提供したい。さまざまな工夫で「むずかしい」を「これならできる」にしたい。お客様までしっかりつなぎたい。そんな熱い思いの到達点がこの物流チームです。
このようなやり方で、障がい者雇用のチャンスがさらに広がっていきます。

■ スワンのケーキはチームをつなぐバトン
「最初はケースの箱を組み立てるのに苦労した」と語る吉田さん。中山さんも「リボン結びの練習をした」とか。それぞれ、車の免許取得と北海道旅行に行くことを目標にがんばっています。

「最初がケースの箱を組み立てるのに苦労した」と語る吉田さん。中山さんも「リボン結びの練習をした」とか。それぞれ、車の免許取得と北海道旅行に行くことを目標にがんばっています。

「最初はケースの箱を組み立てるのに苦労した」と語る吉田さん。中山さんも「リボン結びの練習をした」とか。それぞれ、車の免許取得と北海道旅行に行くことを目標にがんばっています。

■ 物流センターの梱包・発送チーム

こうして入力されたデータは、スワン本部で伝票に出力にされ、梱包を担当する吉田宗一郎さんと中山喜満さんの手によって、商品一点一点に添付されます。
「おほかで面倒見のよい吉田さんは、中山さんより一ヵ月ほど先輩。ケーキをひっくり返して台無しにしてしまわないよう、商品を高くかざすことがクセになりました。今年の6月から働き始めた中山さんも自分に厳しく、丁寧な仕事ぶり。二人並んで週5日、梱包作業に精を出します。」
「気を遣うのは入力ミスです。お子さん宛のギフトケーキが届かないなんてことになってはいけませんから」

第2回対象施設が決意表明 障がい者の働く場づくり 応援プロジェクト

月給5万円以上の実現をめざす「障がい者の働く場づくり応援プロジェクト」の報告会を、9月18日にヤマト運輸本社会議室で行いました。報告会は、最初に第1回プロジェクト対象施設の「さくらんぼ作業所」「つくし共同作業所 オリーブ」「ワークショップ八代 麵処田んなか」が、それぞれに進んでいる事業の経過を説明。次に第2回プロジェクト対象施設の「ほっと悠」が、売上げをアップするにはどうすればよいかなど、この1年間で専門家と一緒に検討したプロジェクトの内容を報告しました。

有富理事長は、「商売（事業）がうまくいくチームには二つの特徴がある。一つはお客様が喜ぶことをずっと考えていること。もう一つはP（プラン）D（ドゥ）C（チェック）A（アクション）が、具体的に動き出しているチームはうまくいっている。PDCAが確実に循環しているかどうか、施設に帰ってもう一度見直してください」と報告会の最後に激励しました。



配食弁当150食の目標をクリア、2010年に月給5万円を実現したいと報告するさくらんぼ作業所。

1年間のプロジェクトの内容を報告する第2回プロジェクト対象施設のほっと悠。



障がい者就労に関心のある人で埋まった場内。



報告会後の交流茶話会では、来場者も一緒になって発表者と交流。

夏のカンパより4,600万円のご寄付をいただきました ありがとうございました

ヤマト運輸労働組合の第63回定期中央大会が9月18・19日、グランドプリンスホテル新高輪で開かれました。その中で夏のカンパの贈呈式が行われ、ヤマト労組、ヤマト労連の協力で集まった5,813万円のうち4,600万円が財団に寄付されました。

あいさつに立った有富理事長は「多額の寄付をありがとうございます。障がい者の収入を増やすためにお手伝いする財団の事業活動に、みなさんの善意を有効に使用しなければならないと、ひしひしと感じています」とお礼を述べ、今後の支援をお願いしながら感謝の言葉で締めくくりました。



村松中央執行委員長（左）より贈呈の記録を受ける有富理事長。

「がんばれ！」と掛け声もかかった 障がい者本人によるクロネコ メール便配達特別報告会

8月30日、大分市コンパルホールで障がい者本人によるクロネコメール便配達事業特別報告会を開催。130名の来場者が見守る中、大分県内外10箇所の施設・作業所から21名のクロネコメイトさんが、メール便配達について報告しました。責任ある仕事を任された喜び、お客様からの「ありがとう。」の一言が励みになったこと、どんどん自分が変わっていくのが分かったことなど、素直な感想が報告される度に大きくうなずく来場者のみなさん。今日の



「僕のクロネコメール便人生はこうして始まりました」と責任ある仕事を人生に例えたワーク大分すみれ会の後藤晃さん。（中央）

報告をするまでに小さなドラマがあったことがうかがえるご家族の姿もありました。やがて、会場と一体になり「がんばれ！」と掛け声もかかって、共感の輪が広がりました。「知ってほしい」と「知りたい」が繋がった特別報告。一人一人が「クロネコメール便」をしっかり支えています。



障がい者就労の世界基準がテーマに。熱心に耳を傾ける出席者。

ディーセントワークへの各国の取り組みを報告するパネラー。



スワン赤坂店を長谷川真一（ILO駐日代表らとともに訪れたバーバラ・ムレイさん（右から2人目）「とってもかわいらしいお店ですね。」とおほめの言葉をいただきました。



これからは、「ディーセントワーク」がキーワード
2008 ワーカービリティ
インターナショナル世界会議

障がい者の雇用や就労に関する団体が加盟するワーカービリティインターナショナル（W1）の国際会議が、24カ国55名の海外からの参加者を迎えて9月9日から4日間にわたり札幌プリンスホテルで開催。初日の「ジャパンデー」ではクロネコメール便配達事業に取り組む障がい者の様子が上映されたほか、2日目にはILO障害担当上級専門官バーバラ・ムレイさんの基調講演「ディーセントワークと障害者就労における今日的課題」とパネルディスカッションが行われました。「安全な環境」「自由と尊厳」「同一の賃金」という職場条件を世界基準として障がい者にも適用するILOのディーセントワーク理念が、この会議を機に日本の関係者にも広がろうとしています。

12日には、バーバラ・ムレイさんは東京に移動してスワン赤坂店の障がい者雇用を視察。「働きがいのある人間らしい仕事＝ディーセントワーク」がこれからのキーワードです。



北陸と中国にスワン
ベーカリーオープン

スワンカフェ&
ベーカリー沼隈店
(9月1日オープン)



店舗 DATA
広島県福山市沼隈町草深 2011-1
電話番号▶084-987-0433
営業時間▶9:00~19:00
定休日▶年中無休
アクセス▶ニチエー沼南店駐車場内

スワンベーカリー
ハートランド
西福井駅前店
(9月5日オープン)



店舗 DATA
福井県福井市文京 4-3-1 ホームセンターみつわ西福井店 1F
電話番号▶0776-50-0770
営業時間▶9:30~19:00
定休日▶年中無休
アクセス▶越前鉄道福井大学前西福井駅下車/京福バス福井大学前下車

メール便配達事業が新しい視点から評価
ソーシャル・ビジネス・
アワード 2008 受賞

「障がい者のクロネコメール便配達事業」がソーシャル・イノベーション・ジャパン（代表理事 谷本寛治 一橋大学大学院教授）主催の「ソーシャル・ビジネス・アワード2008」において「社会的価値創造の広がりが大きい」として「ソーシャル・ビジネス賞」優秀賞を受賞しました。9月19日に行われた授賞式では、ヤマト運輸株式会社執行役員 筧 清隆メール便事業本部長が賞の贈呈を受けました。受賞者あいさつの中で、「健常者と同じ仕事を同じ賃金で働いていただくこと、約1割の障がい者が自信をつけて一般の会社に就職したこと、これからもヤマト運輸にとっても障がい者にとっても意義ある事業として拡大したい」との抱負を出席者に伝えました。



他の受賞者とともに記念撮影。筧 清隆メール便事業本部長（右から5人目）。

コロー

光と追憶の 変奏曲



Jean-Baptiste Camille Corot (1796-1875)
《Souvenir de Mortefontaine》
ジャン=バティスト・カミーユ・コロー (1796-1875)
『モルトフォンテーヌの思い出』
1864年、ルーヴル美術館
©Photo: RMN/ René-Gabriel Ojéda/ distributed by DNPAC



Jean-Baptiste Camille Corot (1796-1875) 《La dame en bleu》
ジャン=バティスト・カミーユ・コロー (1796-1875)
『青い服の婦人』 1874年、ルーヴル美術館
©Photo: RMN/ Hervé Lewandowski/ distributed by DNPAC

開催期間▶2008年9月13日(土)～12月7日(日)
休館日▶毎週月曜日(ただし、祝日の場合は開館。翌火曜日が休館)
開催場所▶神戸市立博物館
●JR「三ノ宮」、地下鉄山手線・阪急・阪神「三宮」から徒歩約10分
●JR・阪神「元町」から徒歩約10分
●地下鉄海岸線「旧居留地・大丸前」から徒歩約5分
開館時間▶午前9時30分～午後5時00分(入館は午後4時30分まで)
※金曜・土曜日と神戸ルミナリエ期間中(12月4日～7日)は午後7時まで。
入館は午後6時30分まで。

入館料▶

	一般	高・大学生	小・中学生
当日	1,500円	1,100円	600円

○障がい者の方で障がい者手帳を持参の方は無料になります。

問い合わせ先▶

■公式ホームページ <http://www.corot2008.jp/>

主催▶神戸市立博物館、読売新聞大阪本社、NHK神戸放送局

企画協力▶ルーヴル美術館

後援▶外務省、文化庁、フランス大使館



19世紀のフランスの画家カミーユ・コロー(1796～1875)の風景画や人物画は、世界中の芸術家や美術愛好家を魅了してきました。「コロー 光と追憶の変奏曲」では、パリのルーヴル美術館の全面的協力により、初期から晩年にいたる風景画、人物画、物語画などの作品を通して、コロー芸術の全貌を紹介します。ルーヴル美術館が所蔵するコローの代表作「真珠の女」「モルトフォンテーヌの思い出」「青い服の婦人」の展示をはじめ、国内外の名作78点を展示。また、コローの影響を受けたモネ、ルノワール、マティスなどの作品22点もあわせて展示します。コロー神戸展の美術品取り扱い扱いをヤマトロジスティクス株式会社が協力しています。

ヤマト福祉財団全国支部連絡先 (ヤマト運輸(株)内)

支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	小原 守	TEL.022-374-8065
東京支部	名古屋健史	TEL.03-5564-3705
関東支部	森田雅哉	TEL.045-508-6106
北信越支部	青木浩昭	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL.052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	内山 修	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3340
沖縄支部	古謝盛裕	TEL.098-840-3605

賛助会員 個人52,154人 法人ヤマトグループ37社(2008年3月31日現在)



東北支部
小原 守新事務長が就任しました。
よろしくお願いたします。